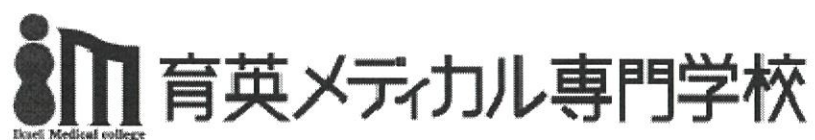


令和 6 年度



柔道整復学科 1 年

講義要項 (シラバス)

講義科目名	解剖学 I	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	後藤 香織	講義回数	40 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	通 年
講義内容	<p>1年生で履修する解剖学 I では、解剖学概論、運動系(骨学、筋学)および脈管系までを範囲とする。解剖学を初めて履修するにあたって「難しいのでは?」とか「覚えることが多いのでは?」と不安があると思う。確かに解剖学は難しい用語が多く、覚える内容が多い。しかし、解剖学で覚えることは医学の共通用語をマスターすることであり、また、国家試験での出題の割合も高い重要な科目である。それゆえ自然に自ら学んでいく姿勢が身についていく人が殆どである。特に運動系の内容については、将来、柔道整復師として活躍するために基本となることばかりであるから、じっくりと取り組んでほしい。</p> <p>解剖学と生理学は切り離すことのできない車の両輪のようなものである。しかし生理学は自然科学の基礎的な知識がないと難しく感じる人が多いのに対し、解剖学は独学しやすい科目といえる。到達目標は卒業後患者さんを診る時に体の中が透けて見えるようになってほしい。</p> <p>この講義では予習は不要であるが、復習をよくしてほしい。</p>		
評 価	<p>期末試験の得点が各期末の評価となる。 出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備 考	<p>講義は主に教科書を用いて行う 場合によってはスライドやDVDの映像も用いる</p>		
参考書等	<p>参考書は、講義中で紹介する予定である。</p>		

第1学年 科目(解剖学I)			担当(後藤 香織)		内容	
週	編	章	節	時数	日付(I部)	日付(II部)
前期	1	人体解剖学概説	A.意義と分類、Bのうち「細胞」	1	4月8日	4月9日
	2	人体解剖学概説	Bの「組織」	2	4月15日	4月16日
	3	人体解剖学概説	C、D	3	4月22日	4月23日
	4	人体解剖学概説	E	4	5月13日	5月7日
	5	運動系	骨格系「総論」	5	5月20日	5月14日
	6	運動系	骨格系各論①脊柱	6	5月27日	5月21日
	7	運動系	骨格系各論②胸郭	7	6月3日	5月28日
	8	運動系	骨格系各論③上肢の骨1	8	6月10日	6月4日
	9	運動系	骨格系各論④上肢の骨2	9	6月17日	6月11日
	10	運動系	骨格系各論⑤上肢の骨3	10	6月24日	6月18日
	11	運動系	骨格系各論⑥上肢の骨4	11	7月1日	6月25日
	12	運動系	骨格系各論⑦下肢の骨1	12	7月8日	7月2日
	13	運動系	骨格系各論⑧下肢の骨2	13	7月15日	7月9日
	14	運動系	骨格系各論⑨下肢の骨3	14	7月22日	7月16日
	15	運動系	骨格系各論⑩頭蓋の骨1	15	7月29日	7月23日
	16	運動系	骨格系各論⑪頭蓋の骨2	16	8月5日	7月30日
	17	運動系	骨格系各論⑫頭蓋の骨3	17	8月19日	8月20日
18	前期末試験			8月26日	8月27日	
19	解答・解説			9月2日	9月3日	
20	運動系	総合復習		9月9日	9月10日	
21	運動系	筋系「総論」		9月23日	9月24日	
22	運動系	筋系各論①頭部の筋		9月30日	10月8日	
23	運動系	筋系各論②頸部の筋		10月7日	10月15日	
24	運動系	筋系各論③胸部の筋と呼吸		10月21日	10月22日	
25	運動系	筋系各論④腹部の筋		10月28日	10月29日	
26	運動系	筋系各論⑤背部の筋		11月4日	11月5日	
27	運動系	筋系各論⑤-2背部の筋		11月11日	11月12日	
28	運動系	筋系各論⑥腰部の筋1		11月18日	11月19日	
29	運動系	筋系各論⑦上肢の筋1		11月25日	11月26日	
30	運動系	筋系各論⑧上肢の筋2		12月2日	12月3日	
31	運動系	筋系各論⑨上肢の筋3		12月9日	12月10日	
32	運動系	筋系各論⑩上肢の筋4		12月16日	12月17日	
33	運動系	筋系各論⑪下肢の筋1		1月6日	1月7日	
34	運動系	筋系各論⑫下肢の筋2		1月20日	1月14日	
35	運動系	筋系各論⑬下肢の筋3		1月27日	1月21日	
36	運動系	総合復習		2月3日	1月28日	
37	運動系	総合復習		2月10日	2月4日	
38	後期末試験			2月17日	2月11日	
39	解答・解説			2月24日	2月18日	
40	復習			3月3日	2月25日	
合計時数				40	※7/15・9/23・11/4・2/11・2/24は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。 ※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	生理学 I	分野区分	専門基礎分野
担当教員名	後藤 香織	講義回数	40 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	通 年
講義内容	<p>教科書が新版になり2年経過しましたが、学習の順番として旧版の順番で講義をしたほうが皆さんが理解がしやすいので前後しながら講義をしていきます。</p> <p>生理学は正常なヒトが普通に生きるために体内で様々な調整が行われていることを学びます。これは、解剖学が体の「部位名」を覚えていくのに対し、生理学は体の「機能」を学ぶこととなります。</p> <p>生理学は苦手感を感じる学生が多い傾向にありますが、体の仕組みや働きを考えることは将来にとってとても有意義なことであるので、ぜひ教科書をよく読みましょう。</p> <p>高校時代に生物や化学を履修していないと理解しにくいので、簡単な高校生物や化学の本を読んでおいてください。体内での様々な興味深い恒常性のメカニズムを学ぶと、医療の道を歩もうとしている皆さんにとっては、生理学は医療の初歩の学問として重要なものと捉えて頂けると思います。</p>		
評 価	<p>期末試験の得点が各期末の評価となる。</p> <p>出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備 考			
参考書等	<p>講義は教科書を用いて行う。</p> <p>スライド及びプリントDVDの映像も用いる。</p> <p>教科書だけでなくプリントも配布する。</p>		

第1学年 科目(生理学I)

担当(後藤 香織)

週	編	章	節	時数	日付(I部)	日付(II部)	内容
1		生理学とは	A	1	4月8日	4月9日	生理学とホメオスタシス、有機化学の基礎
2		生理学とは	B	2	4月15日	4月16日	糖質と脂質、細胞の機能的構造、DNA
3		生理学とは	CD	3	4月22日	4月23日	拡散と浸透、ろ過、受動・能動輸送他
4		まとめ		4	5月13日	5月7日	体液の区分と水バランス
5		筋の生理	A	5	5月20日	5月14日	イオン組成と恒常性を維持する仕組み
6		筋の生理	B	6	5月27日	5月21日	酸塩基平衡の調節
7		筋の生理	C	7	6月3日	5月28日	血液の役割と組成
8		まとめ		8	6月10日	6月4日	血液の役割と組成、免疫とは
9		神経の生理	A1-3	9	6月17日	6月11日	血液型と血液凝固
10		神経の生理	A4-5	10	6月24日	6月18日	心臓の機能
11		神経の生理	B	11	7月1日	6月25日	心筋の基本的性質
12		神経の生理	C	12	7月8日	7月2日	心電図と不整脈
13		神経の生理	D1-3	13	7月15日	7月9日	心臓のポンプ機能
14		神経の生理	D4-5	14	7月22日	7月16日	血管系、各種血管の構造と働き
15		まとめ		15	7月29日	7月23日	血圧とリンパ管系
16		まとめ		16	8月5日	7月30日	循環の調節
17		感覚の生理	A	17	8月19日	8月20日	総合演習
18		前期末試験		18	8月26日	8月27日	前期末試験
19		解答・解説		19	9月2日	9月3日	解答・解説
20		感覚の生理	B	20	9月9日	9月10日	局所循環
21		感覚の生理	C	21	9月23日	9月24日	呼吸器の構造、換気
22		感覚の生理	D	22	9月30日	10月8日	ガス交換、酸素、二酸化炭素の運搬
23		感覚の生理	E	23	10月7日	10月15日	呼吸の調節
24		まとめ		24	10月21日	10月22日	呼吸の異常、特殊環境下の呼吸
25		内分泌	A1-3	25	10月28日	10月29日	消化器の構造と消化管運動
26		内分泌	A4-5	26	11月4日	11月5日	消化液の分泌機序
27		内分泌	B1	27	11月11日	11月12日	口腔内、食道の消化
28		内分泌	B2-3	28	11月18日	11月19日	胃、小腸、大腸での消化
29		内分泌	B4-6	29	11月25日	11月26日	吸収
30		内分泌	B7-9	30	12月2日	12月3日	肝臓と胆道系
31		内分泌	B10-11	31	12月9日	12月10日	各種栄養素の役割とクエン酸回路
32		内分泌	C	32	12月16日	12月17日	中間代謝
33		まとめ		33	1月6日	1月7日	エネルギー代謝
34		生殖	AB	34	1月20日	1月14日	体温、熱の産生
35		生殖	CD	35	1月27日	1月21日	体温、熱の産生
36		まとめ		36	2月3日	1月28日	高齢者の生理的特徴
37		血液	A	37	2月10日	2月4日	成長に伴う運動能力の発達
38		後期末試験		38	2月17日	2月11日	後期末試験
39		解答・解説		39	2月24日	2月18日	解答・解説
40		血液	B	40	3月3日	2月25日	腎臓
				合計時数			

※7/15・9/23・11/4・2/11・2/24は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。
 ※日程は変更されることがあります。

講義科目名	柔道整復学Ⅲ	分野区分	専門分野
担当教員名	黒岩 靖史	講義回数	40回
履修学年	第1学年	履修期間	通年
講義内容	<p>柔道整復学の</p> <p>(1) 柔道整復師の業務範囲や心得などについて学ぶ「概説」</p> <p>(2) 該当する病態を良好な治癒に導くための「指導管理総論」</p> <p>(3) 柔道整復師の治療法の「整復法・固定法総論」</p> <p>(4) 業務範囲の是非を判断するうえで重要となる「臨床徒手検査法」についての講義を行う。</p> <p>柔道整復師が行う治療法は整復・固定・後療法の3段階に分けられ、患者の指導管理を行いながら早期社会復帰や日常生活を改善し生活の質を向上することを目的にしている。その改善の主体となるのは運動器であり骨や関節、骨格筋の構造は柔道整復師が学習すべき最重要の項目であることからアプローチすることが多い骨格筋についての講義も行う予定である。</p> <p>臨床徒手検査法については上級学年に進級し各論を学んだ際に、臨床徒手検査法の意義と病態に対する理解が深まるように行い、臨床に従事した際の評価の精度ならびに柔道整復師の業務範囲の是非の判断力を高めることを目標とする。</p> <p>教室での講義が中心になるが必要に応じて実技を交えて行う予定である。</p>		
評価	<p>期末試験の得点が各期末の評価となる。</p> <p>出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備考	<p>実技室で行う場合は白衣を着用すること。</p> <p>参考資料を配布するためしっかりとファイリングすること。</p>		
参考書等	<p>参考資料等を配布する。</p> <p>全国柔道整復学校協会監修: 柔道整復学(理論編・実技偏) [南江堂]</p> <p>全国柔道整復学校協会監修: 包帯固定学(理論編・実技偏) [南江堂]</p> <p>全国柔道整復学校協会監修: 解剖学 [医歯薬出版]</p> <p>全国柔道整復学校協会監修: 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理 [医歯薬出版]</p>		

第1学年 科目 (柔道整復学Ⅲ)

担当 (黒岩 靖史)

週	編	章	節	時数	日付(Ⅰ部)	日付(Ⅱ部)	内容
1				1	4月9日	4月8日	柔道整復師にとって必要な基礎知識
2				2	4月16日	4月15日	柔道整復師にとって必要な基礎知識
3				3	4月23日	4月22日	柔道整復師にとって必要な基礎知識
4				4	5月7日	5月13日	柔道整復術および柔道整復師の沿革
5				5	5月14日	5月20日	柔道整復師の業務範囲と心得
6				6	5月21日	5月27日	柔道整復師倫理綱領
7				7	5月28日	6月3日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
8				8	6月4日	6月10日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
9				9	6月11日	6月17日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
10				10	6月18日	6月24日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
11				11	6月25日	7月1日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
12				12	7月2日	7月8日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
13				13	7月9日	7月15日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
14				14	7月16日	7月22日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
15				15	7月23日	7月29日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
16				16	7月30日	8月5日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
17				17	8月20日	8月19日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
18				18	8月27日	8月26日	前期末試験
19				19	9月3日	9月2日	解答・解説
20				20	9月10日	9月9日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
21				21	9月24日	9月23日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
22				22	10月8日	9月30日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
23				23	10月15日	10月7日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
24				24	10月22日	10月21日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
25				25	10月29日	10月28日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
26				26	11月5日	11月4日	治療法総論(整復法・固定法・指導管理)
27				27	11月12日	11月11日	臨床徒手検査法
28				28	11月19日	11月18日	臨床徒手検査法
29				29	11月26日	11月25日	臨床徒手検査法
30				30	12月3日	12月2日	臨床徒手検査法
31				31	12月10日	12月9日	臨床徒手検査法
32				32	12月17日	12月16日	臨床徒手検査法
33				33	1月7日	1月6日	臨床徒手検査法
34				34	1月14日	1月20日	臨床徒手検査法
35				35	1月21日	1月27日	臨床徒手検査法
36				36	1月28日	2月3日	臨床徒手検査法
37				37	2月4日	2月10日	臨床徒手検査法
38				38	2月11日	2月17日	後期末試験
39				39	2月18日	2月24日	解答・解説
40				40	2月25日	3月3日	臨床徒手検査法
				合計時数	※7/15・9/23・11/4・2/11・2/24は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。 ※日程は変更されることがあります。		

講義科目名	国 語	分野区分	基礎分野
担当教員名	梅山 理恵	講義回数	40 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	通 年
講義内容	<p>どんな科目を勉強するにも必要な「日本語」を正しく理解する力や、さまざまな問題を解く力を身につけていきます。前期では、自国の言葉を見直して正しく理解すること、主に基礎的な漢字や敬語、簡単な文章の読解などを通して基礎を固めます。</p> <p>後期では、前期の学習をふまえ、複雑な日本語の言い回しや、社会人として必要な文書作成、履歴書作成などを行います。</p> <p>一般教養としての枠をこえ、これからの学習及び試験、そして卒業後にも生かせる国語力を身につける授業を目指します。</p> <p>これまで中学・高校などで学んできた「国語」とは異なるものですので、しっかり学んで今後に生かせるようにしてください。</p> <p>また、マインドマップの内山雅人先生による特別講座を年4回行います。</p> <p>脳の使い方、ノートの取り方など、今後の勉強にも役に立つことがたくさんありますので、集中して受講してください。</p>		
評 価	出席状況、授業態度、小テストなども総合評価として加味します。		
備 考	講義はスライド及びプリントを用いて行います。		
参 考 書 等	テキストは使用しません。授業時にプリントを配布します。		

第1学年 科目(国語)

担当(梅山 理恵)

週	編	章	節	時数	日付(I部)	日付(II部)	内容
1				1	4月9日	4月8日	YGテスト・課題確認テスト
2			国語(基礎)	2	4月16日	4月15日	合格者課題解答・解説
3			国語(基礎)	3	4月23日	4月22日	自分の国語能力を知る①
4			国語(基礎)	4	5月7日	5月13日	自分の国語能力を知る②
5			国語(基礎)	5	5月14日	5月20日	マインドマップ講座①(マインドマップ基礎)
6			国語(基礎)	6	5月21日	5月27日	漢字から日本語を知る(一般常識レベル)①
7			国語(基礎)	7	5月28日	6月3日	漢字から日本語を知る(一般常識レベル)①
8			国語(基礎)	8	6月4日	6月10日	文のきまり、基礎的な文法
9			国語(基礎)	9	6月11日	6月17日	敬語・敬意表現
10			国語(基礎)	10	6月18日	6月24日	文章読解・要約(基礎)①
11			国語(基礎)	11	6月25日	7月1日	文章読解・要約(基礎)②
12			国語(基礎)	12	7月2日	7月8日	国語作品制作①
13			国語(基礎)	13	7月9日	7月15日	国語作品制作②
14			国語(基礎)	14	7月16日	7月22日	国語作品制作③
15			国語(基礎)	15	7月23日	7月29日	語彙力①
16			国語(基礎)	16	7月30日	8月5日	語彙力②
17			国語(基礎)	17	8月20日	8月19日	前期復習
18			国語(基礎)	18	8月27日	8月26日	前期末試験
19			国語(基礎)	19	9月3日	9月2日	解答・解説
20		前期末試験 解答・解説	国語(基礎)	20	9月10日	9月9日	マインドマップ講座②(目標設定)
21			国語(応用)	21	9月24日	9月23日	医療漢字の読み書き(常用漢字)
22			国語(応用)	22	10月8日	9月30日	医療漢字の読み書き(常用外漢字)
23			国語(応用)	23	10月15日	10月7日	文章説明
24			国語(応用)	24	10月22日	10月21日	文章作成
25			国語(応用)	25	10月29日	10月28日	日本語表現(キヤッチコピー)①
26			国語(応用)	26	11月5日	11月4日	日本語表現(キヤッチコピー)②
27			国語(応用)	27	11月12日	11月11日	マインドマップ講座③(人間力)
28			国語(応用)	28	11月19日	11月18日	履歴書の書き方
29			国語(応用)	29	11月26日	11月25日	履歴書の書き方②
30			国語(応用)	30	12月3日	12月2日	挨拶文の書き方①
31			国語(応用)	31	12月10日	12月9日	挨拶文の書き方②
32			国語(応用)	32	12月17日	12月16日	日本語のルール①
33			国語(応用)	33	1月7日	1月6日	日本語のルール②
34			国語(応用)	34	1月14日	1月20日	文章読解・要約(応用)①
35			国語(応用)	35	1月21日	1月27日	文章読解・要約(応用)②
36			国語(応用)	36	1月28日	2月3日	文章読解・要約(応用)③
37			国語(応用)	37	2月4日	2月10日	後期復習
38		後期末試験	国語(応用)	38	2月11日	2月17日	後期末試験
39		解答・解説	国語(応用)	39	2月18日	2月24日	解答・解説
40		総括		40	2月25日	3月3日	マインドマップ講座④(その後)にむけて

※7/15・9/23・11/4・2/11・2/24は祝日ですが、授業日となりますのでご注意ください。
※日程は変更されることがあります。

合計時数

40

講義科目名	柔道整復学 I	分野区分	専門分野
担当教員名	武隈 覚正	講義回数	40 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	通 年
講義内容	<p>・授業形態 講義形式(教科書、プリント、パワーポイントなど)</p> <p>・授業目的 通年にわたり、柔道整復学の「総論」を学ぶ授業です。 総論は「各論(各部位の外傷学)」に必要な基礎であり共通言語になります。 「総論」=「柔道整復学の入口」ととらえてください。 用語を単に暗記することだけでなく、その意味を理解することが重要です。 そして理解しはじめると徐々に学びの面白さにつながります。</p> <p>・授業の内容 年間指導計画表を参考のこと。</p>		
評 価	<p>期末試験が各期末の評価となる。 出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備 考			
参考書等	<p>配布するプリント 柔道整復学・理論編</p>		

第1学年 科目(柔道整復学Ⅰ) 担当(武隈 覚正)

週	編	章	節	時数	日付	内容
1		第Ⅰ・Ⅱ章		1	4月10日	柔道整復師について、損傷に関わる力、痛みについて
2				2	4月17日	骨の形態と機能
3				3	4月24日	骨損傷の概説、骨損傷の分類
4				4	5月8日	骨損傷の分類
5				5	5月15日	骨損傷の分類
6				6	5月22日	骨損傷の分類
7			骨折総論	7	5月29日	骨折の症状
8				8	6月5日	骨折の症状
9		第Ⅱ章		9	6月12日	骨折の合併症
10				10	6月19日	骨折の合併症
11				11	6月26日	小児骨折、高齢者骨折の特徴
12				12	7月3日	骨折の癒合日数、経過、予後
13				13	7月10日	骨折の治癒に影響を与える因子
14				14	7月17日	関節の構造と機能
15			関節損傷総論	15	7月24日	関節損傷
16				16	7月31日	関節損傷
17				17	8月21日	関節損傷
18		前期末試験		18	8月28日	前期末試験
19		解答・解説		19	9月4日	解答・解説
20				20	9月11日	脱臼の概説、脱臼の分類
21		総論		21	9月25日	脱臼の分類
22			関節損傷総論	22	10月2日	脱臼の症状、脱臼の合併症
23				23	10月9日	脱臼の整復障害、脱臼の経過と予後
24				24	10月16日	関節構成組織の損傷
25				25	10月23日	関節構成組織の損傷
26				26	10月30日	筋損傷
27			筋損傷総論	27	11月6日	筋損傷
28				28	11月20日	筋損傷
29		第Ⅱ章		29	11月27日	筋損傷
30			腱損傷総論	30	12月4日	腱損傷
31				31	12月11日	腱損傷
32			神経損傷総論	32	12月18日	神経損傷
33				33	1月8日	神経損傷
34				34	1月15日	外傷予防(運動機能向上と教育活動)
35				35	1月22日	外傷予防(運動機能向上と教育活動)
36			外傷予防	36	1月29日	外傷予防(運動機能向上と教育活動)
37				37	2月5日	外傷予防(特異的予防)
38		後期末試験		38	2月12日	後期末試験
39		解答・解説		39	2月19日	解答・解説
40				40	2月26日	総合学習
合計時数				40	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	柔道整復実技Ⅱ	分野区分	専門分野
担当教員名	黒岩 靖史(実務経験有り)	講義回数	40回
履修学年	第1学年	履修期間	通年
講義内容	<p>身体各部の触診実技を中心に行う。</p> <p>柔道整復師として臨床に従事する上で、施術すべき組織を正確に触診できる知識、技術を持つことは、医療面接(問診)、視診とともに評価を行う際の根幹となるものである。上肢・下肢の骨と筋、さらには動脈拍動や神経の感覚領域を触診するとその異常を見出すことができる。</p> <p>まずは実際に相手の身体に触れることによって体表解剖に基づく人体の特徴を理解し、また、自分自身も触れられることによって不快に感じる触診方法や部位を体感し、臨床に従事した際の評価に対応するための基礎となる知識、技術を持つことを目標とする。</p>		
評価	<p>筆記試験と実技試験で各期末の評価とする。</p> <p>出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備考	<p>白衣は必ず着用し、実技室内へは土足で入室しないこと。</p> <p>ただし、実技内容によっては脱着しやすい服装を指示することもある。</p> <p>参考資料を配布するためしっかりとファイリングすること。</p>		
参考書等	<p>参考資料等を配布する。</p> <p>全国柔道整復学校協会監修:解剖学 [医歯薬出版]</p>		

第1学年 科目(柔道整復実技Ⅱ) 担当(黒岩 靖史)

週	編	章	節	時数	日付	内容
1				1	4月10日	触診の基本について
2				2	4月17日	触診を行うにあたって必要な基礎知識
3				3	4月24日	触診を行うにあたって必要な基礎知識
4				4	5月8日	触診を行うにあたって必要な基礎知識
5				5	5月15日	触診を行うにあたって必要な基礎知識
6				6	5月22日	触診を行うにあたって必要な基礎知識
7				7	5月29日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
8				8	6月5日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
9				9	6月12日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
10				10	6月19日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
11				11	6月26日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
12				12	7月3日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
13				13	7月10日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
14				14	7月17日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
15				15	7月24日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
16				16	7月31日	前期末実技試験
17				17	8月21日	前期末実技試験
18				18	8月28日	前期末筆記試験
19				19	9月4日	前期末筆記試験解説
20				20	9月11日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
21				21	9月25日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
22				22	10月2日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
23				23	10月9日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
24				24	10月16日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
25				25	10月23日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
26				26	10月30日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
27				27	11月6日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
28				28	11月20日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
29				29	11月27日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
30				30	12月4日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
31				31	12月11日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
32				32	12月18日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
33				33	1月8日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
34				34	1月15日	後期末実技試験
35				35	1月22日	後期末実技試験
36				36	1月29日	後期末実技試験
37				37	2月5日	後期末実技試験
38				38	2月12日	後期末筆記試験
39				39	2月19日	後期末筆記試験解説
40				40	2月26日	身体各部の主な骨指標、筋腱などの触診
				合計	40	※日程は変更されることがあります。

講義科目名	柔道整復実技Ⅲ	分野区分	専門分野
担当教員名	福田 泰昌(実務経験有り)	講義回数	20回
履修学年	第1学年	履修期間	前期
講義内容	<p>柔道整復師に必要な基礎知識を学び、人体の形状や関節の動きなどについてイメージできるようになることを目指す。</p> <p>また、テーピングの種類、基本的な扱い方、巻き方、応用等についての知識・技術を高める。</p> <p>併せて、基本的な勉強の方法についても身に付けるようにする。</p>		
評価	<p>筆記試験と実技試験で評価する。</p> <p>出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備考	<p>実技室の使用ルールを守ること！</p>		
参考書等	<p>包帯固定学 * 適宜プリントを配布する。</p>		

第1学年 科目(柔道整復実技Ⅲ)				担当(福田泰昌)			
週	編	章	節	時数	日付	内容	
1				1	4月11日		
2				2	4月18日		
3				3	4月25日		
4				4	5月9日		
5				5	5月16日		
6				6	5月23日		
7				7	5月30日		
8				8	6月6日		
9				9	6月13日		
10				10	6月20日		
11				11	6月27日		
12				12	7月4日		
13				13	7月11日		
14				14	7月18日		
15				15	7月25日		
16		前期末試験		16	8月1日		
17				17	8月22日		
18		前期末試験		18	8月29日		
19		解答・解説		19	9月5日		
20				20	9月12日		
前期				20	※日程は変更されることがあります。		
				合計時数			

- 基本用語
- テーピング実技
- その他検査
- 骨、関節の解剖学

- 総合演習
- 前期末試験(実技①)
- 前期末試験(実技②)
- 前期末試験(実技③)
- 前期末試験(筆記)
- 前期末試験(筆記)解答・解説
- 総合演習

講義科目名	倫理学	分野区分	基礎分野
担当教員名	梅山 理恵	講義回数	20 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	後 期
講義内容	<p>「倫理とは何か」「なぜ倫理は私たちに必要なものなのか」というところから学習をはじめ、医療という場における倫理について理解を深めていきます。</p> <p>医療従事者となることを自覚して、現代の医療現場における倫理的問題について、十分な知識を修得し、それについて真摯に考える力をつけることを目標とします。</p> <p>授業の中心は、話し合い形式のグループワークです。医療現場での倫理的問題などを取り上げ考察することを通して、自己の倫理観を養っていきます。</p> <p>各テーマに真剣に取り組み、自分の意見をしっかりと伝え、相手の意見を真摯に受け止めてください。</p>		
評 価	<p>定期試験だけでなく、授業態度を重視します。</p> <p>主に、出席とグループワーク・討論などの態度を重視して評価します。</p>		
備 考	<p>講義はスライド及びプリントを用いて行います。</p>		
参考書等	<p>テキストは使用しません。授業時にプリントを配ります。</p>		

第1学年 科目(倫理学)

担当(梅山 理恵)

週	編	章	節	時数	日付	内容
21			オリエンテーション	1	9月26日	ガイダンス(倫理学とは何か・グループワークについて)
22			倫理と道徳	2	10月3日	規範倫理学の3つの立場・道徳的ジレンマ
23			生命倫理	3	10月10日	終末期医療にまつわる倫理的問題① 重篤疾患の告知1
24			生命倫理	4	10月17日	終末期医療にまつわる倫理的問題① 重篤疾患の告知2
25			生命倫理	5	10月24日	終末期医療にまつわる倫理的問題① 重篤疾患の告知3
26			生命倫理	6	10月31日	終末期医療にまつわる倫理的問題② 脳死と臓器移植1
27			生命倫理	7	11月7日	終末期医療にまつわる倫理的問題② 脳死と臓器移植2
28			生命倫理	8	11月21日	終末期医療にまつわる倫理的問題② 脳死と臓器移植3
29			生命倫理	9	11月28日	終末期医療にまつわる倫理的問題③ 安楽死1
30			生命倫理	10	12月5日	終末期医療にまつわる倫理的問題③ 安楽死2
31			生命倫理	11	12月12日	終末期医療にまつわる倫理的問題③ 安楽死3
32			生命倫理	12	12月19日	生殖医療にまつわる倫理的問題①
33			生命倫理	13	1月9日	生殖医療にまつわる倫理的問題①
34			職業倫理	14	1月16日	鍼灸師としての倫理
35			医療倫理	15	1月23日	患者の自己決定権の尊重・QOL・医療倫理の四原則
36			医療倫理	16	1月30日	ケーススタディ(対応の難しい患者)
37			医療倫理と法	17	2月6日	柔整師が関係する判例
38			後期末試験	18	2月13日	後期末試験
39			解答・解説	19	2月20日	解答・解説
40			倫理と他分野	20	2月27日	倫理学と関係のある他分野について
合計時数				20	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	柔道整復学Ⅱ	分野区分	専門分野
担当教員名	蓮見 昭洋	講義回数	40回
履修学年	第1学年	履修期間	通年
講義内容	<p>授業形態は講義形式で行う。</p> <p>柔道整復師にとって重要な基礎知識である、体の構造や機能について学ぶ。</p>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期末試験の得点が各期末の評価となる。 ・ 出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。 		
備考			
参考書等	<p>柔道整復学理論編 解剖学 生理学 シンプル生理学</p>		

第1学年 科目(柔道整復学Ⅱ) 担当(蓮見 昭洋)

週	編	章	節	時数	日付	内容
1				1	4月11日	柔道整復師に必要な基礎知識
2				2	4月18日	柔道整復師に必要な基礎知識
3				3	4月25日	柔道整復師に必要な基礎知識
4				4	5月9日	柔道整復師に必要な基礎知識
5				5	5月16日	柔道整復師に必要な基礎知識
6				6	5月23日	柔道整復師に必要な基礎知識
7				7	5月30日	柔道整復師に必要な基礎知識
8				8	6月6日	柔道整復師に必要な基礎知識
9				9	6月13日	柔道整復師に必要な基礎知識
10				10	6月20日	柔道整復師に必要な基礎知識
11				11	6月27日	柔道整復師に必要な基礎知識
12				12	7月4日	柔道整復師に必要な基礎知識
13				13	7月11日	柔道整復師に必要な基礎知識
14				14	7月18日	柔道整復師に必要な基礎知識
15				15	7月25日	柔道整復師に必要な基礎知識
16				16	8月1日	柔道整復師に必要な基礎知識
17				17	8月22日	柔道整復師に必要な基礎知識
18				18	8月29日	前期末試験
19				19	9月5日	解答・解説
20				20	9月12日	柔道整復師に必要な基礎知識
21				21	9月26日	柔道整復師に必要な基礎知識
22				22	10月3日	柔道整復師に必要な基礎知識
23				23	10月10日	柔道整復師に必要な基礎知識
24				24	10月17日	柔道整復師に必要な基礎知識
25				25	10月24日	柔道整復師に必要な基礎知識
26				26	10月31日	柔道整復師に必要な基礎知識
27				27	11月7日	柔道整復師に必要な基礎知識
28				28	11月21日	柔道整復師に必要な基礎知識
29				29	11月28日	柔道整復師に必要な基礎知識
30				30	12月5日	柔道整復師に必要な基礎知識
31				31	12月12日	柔道整復師に必要な基礎知識
32				32	12月19日	柔道整復師に必要な基礎知識
33				33	1月9日	柔道整復師に必要な基礎知識
34				34	1月16日	柔道整復師に必要な基礎知識
35				35	1月23日	柔道整復師に必要な基礎知識
36				36	1月30日	柔道整復師に必要な基礎知識
37				37	2月6日	柔道整復師に必要な基礎知識
38				38	2月13日	後期末試験
39				39	2月20日	解答・解説
40				40	2月27日	総合演習
合計				40		※日程は変更されることがあります。

前期

後期

※日程は変更されることがあります。

講義科目名	柔道整復実技 I	分野区分	専門分野
担当教員名	金子 充夫(実務経験有り)	講義回数	40 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	通 年
講義内容	<p>・授業形態 講義形式(板書・プリント配布など)、実習形式(各種固定実技)</p> <p>・授業目的 柔道整復術における「固定」の役割を熟知し、認定実技試験に対応できる知識および技術の習得を目指す。最終的には臨床現場において実践できることを講義の目標とする。</p> <p>・授業の内容 年間指導計画表を参考のこと。</p>		
評 価	<p>期末試験(筆記試験と実技試験)が各期末の評価とする。 出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備 考	<p>授業時の服装・身だしなみ等は「学生便覧」に準じる。 「神経血管損傷の有無の確認」の練習のためすぐに裸足になれるような状態にいること。 包帯・ホワイトテープを使用するので、いつでも使えるように準備しておくこと。</p>		
参考書等	<p>包帯固定学 柔道整復学・実技偏</p>		

第1学年 科目(柔道整復実技I) 担当(金子 充夫)

週	編	章	節	時数	日付	内容
1				1	4月12日	固定について(目的・範囲・肢位)、固定材料(硬性材料・軟性材料)
2				2	4月19日	厚紙副子作成
3				3	4月26日	クラマー副子作成
4				4	5月10日	包帯の巻き方と注意事項(順巻きとか・包帯の取り外し方・包帯器の使用法)
5				5	5月17日	基本包帯法(環行帯、麦穂帯) ※手関節を使って行う。
6				6	5月24日	基本包帯法(螺旋帯、蛇行帯) ※前腕を使って行う。
7				7	5月31日	基本包帯法(折転帯、亀甲帯) ※前腕と肘関節を使って行う。
8				8	6月7日	冠名包帯法 デゾー包帯
9				9	6月14日	冠名包帯法 ヴェルボー包帯
10				10	6月21日	冠名包帯法 ジュール包帯
11				11	6月28日	部位別包帯法 肩部・肘部
12				12	7月5日	部位別包帯法 足関節部
13				13	7月12日	総復習
14				14	7月19日	総復習
15				15	7月26日	前期末試験(実技①)
16				16	8月2日	前期末試験(実技②)
17				17	8月23日	前期末試験(実技③)
18				18	8月30日	前期末試験(筆記)
19				19	9月6日	解答・解説
20				20	9月13日	部位別包帯法 前腕部・手部
21				21	9月27日	部位別包帯法 手指部・膝関節部
22				22	10月4日	部位別包帯法 下腿部
23				23	10月11日	三角巾による堤肘
24				24	10月18日	厚紙副子を用いた固定 肋骨骨折
25				25	10月25日	厚紙副子を用いた固定 肩関節脱臼
26				26	11月1日	厚紙副子を用いた固定 足関節捻挫
27				27	11月8日	クラマー副子を用いた固定 コーレス骨折
28				28	11月22日	クラマー副子を用いた固定 肘関節脱臼
29				29	11月29日	総復習
30				30	12月6日	総復習
31				31	12月13日	総復習
32				32	12月20日	総復習
33				33	1月10日	総復習
34				34	1月17日	後期末試験(実技①)
35				35	1月24日	後期末試験(実技②)
36				36	1月31日	後期末試験(実技③)
37				37	2月7日	後期末試験(実技④)
38				38	2月14日	後期末試験(筆記)
39				39	2月21日	解答・解説
40				40	2月28日	総復習
合計時数				40	※日程は変更されることがあります。	

※日程は変更されることがあります。

講義科目名	心理学	分野区分	基礎分野
担当教員名	泉水 清志	講義回数	20回
履修学年	第1学年	履修期間	前期
講義内容	<p>心理学は、人間の心や行動を理解する学問です。医療従事者が心理学を学習する目的として、次の2つがあります。</p> <p>第1は、自己をよく理解するためです。将来の医療現場で適応するためには、自分自身を正しく理解することが必要です。自分に対する理解が不十分な場合、さまざまな場面で問題や不適応を起こしやすいため、心理学を通して自己を理解することは大変重要です。</p> <p>第2は、患者をよく理解するためです。将来の医療現場で患者と上手に接するためには、相手の行動やパーソナリティ、情緒などを正しく理解することが必要です。また、患者の家族や職場の同僚と良い人間関係を築く必要もあり、心理学を通して相手を理解したり他者との関係に応用したりすることは大変重要です。</p> <p>本講義は、心理学の基礎的知識を修得し、医療現場や対人関係に応用していくことができるようになることを目標とします。</p> <p>授業は、講義形式を基本とします。日常生活での具体例を取り上げたり、テーマによって心理テストやグループワークを実施したりすることで、心理学の理解を深めていきます。各テーマに積極的に取り組むとともに、普段の生活から心理学について考えるようにして下さい。</p>		
評価	定期試験の結果をもとに評価します。		
備考	授業内容は、将来の医療現場で活用できることが多いため、それを意識して積極的に授業に取り組むようにして下さい。授業の態度が良くない場合、期末試験を受験することができないこともあります。		
参考書等	テキストは使用せず、教材提示によって講義をすすめ、必要に応じて資料を配布します。		

第1学年 科目(心理学)

担当(泉水 清志)

週	編	章	節	時数	日付	内容
1			オリエンテーション	1	4月12日	ガイダンス(心理学とは何か)
2			心理学の基礎	2	4月19日	知覚の心理
3			心理学の基礎	3	4月26日	対人認知の心理
4			心理学の基礎	4	5月10日	記憶の心理
5			心理学の基礎	5	5月17日	学習の心理
6			心理学の基礎	6	5月24日	感情の心理
7			心理学の基礎	7	5月31日	動機づけの心理
8			心理学の基礎	8	6月7日	パーソナリティの心理
9			心理学の基礎	9	6月14日	発達の心理
10			心理学の基礎	10	6月21日	集団の心理
11			心理学の応用	11	6月28日	対人関係の心理
12			心理学の応用	12	7月5日	コミュニケーションの心理
13			心理学の応用	13	7月12日	消費者の心理
14			心理学の応用	14	7月19日	カウンセリングの心理①カウンセリングの基礎
15			心理学の応用	15	7月26日	カウンセリングの心理②カウンセリングの応用
16			心理学の応用	16	8月2日	患者の心理
17			心理学の応用	17	8月23日	日常生活への応用、前期末試験の説明
18		前期末試験		18	8月30日	前期末試験
19		解答・解説		19	9月6日	解答・解説
20		心理学の応用		20	9月13日	職場の心理
合計 時数				20	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	英 語	分野区分	基礎分野
担当教員名	笹本 哲也	講義回数	20 回
履修学年	第 1 学 年	履修期間	後 期
講義内容	<p>我々の生きる現代において、英語を完全に切り離して生活することは不可能である。このことはもちろん専門性が高い医療の現場でも同じことが言える。とはいえ、日本国内にいながら日常生活で英語を使わなければならない人はごくわずかな人々であり、基本的表現を確実に使いこなせるようになることを主たる目的とする。それに加え、この授業においては、専門分野に関する英語表現だけでなく、生活の中でよく耳にする英語や、英語を使った会話をするための「きっかけ」作りになるようにしたい。専門用語等に関しては、単なる暗記はせず、語源を遡りながら積極的に使えるようになることを目標とする。</p> <p>この授業においては、これまで中学、高等学校で受けてきた授業とは異なるアプローチで英語に触れ、実際に利用する時間を多く設ける。</p>		
評 価	<p><u>成績は筆記試験の点数だけでなく、学生の授業参加度合い(発言や質問)も点数化して評価する。</u>毎回の授業ですでに身に付けている知識を確認し、実際に試してみることでただ「知っている」だけに満足するのではなく「使える」ことを目指して欲しい。</p>		
備 考	<p>授業中に語句の意味を確認することがあります。辞書を毎回持参してください。</p>		
参考書等	<p>毎授業時にプリント、資料配布</p>		

第1学年 科目(英語)

担当(笹本 哲也)

週	編	章	節	時数	日付	内容
21				1	9月27日	カリキュラム説明&模擬授業
22				2	10月4日	位置と方向を表す解剖学的用語
23				3	10月11日	人体各部の名称(頭部・体幹・四肢)
24				4	10月18日	主要な体腔 1
25				5	10月25日	主要な体腔 2
26				6	11月1日	主な臓器・器官の連結形 1
27				7	11月8日	主な臓器・器官の連結形 2
28				8	11月22日	日常生活で有用な英会話例 1
29				9	11月29日	日常生活で有用な英会話例 2
30				10	12月6日	患者との基本会話例 1
31				11	12月13日	患者との基本会話例 2
32				12	12月20日	診察中の患者に対する指示 1
33				13	1月10日	診察中の患者に対する指示 2
34				14	1月17日	柔整基礎用語1
35				15	1月24日	柔整基礎用語2
36				16	1月31日	柔整基礎用語3
37				17	2月7日	試験前まとめ
38				18	2月14日	後期末試験
39				19	2月21日	解答・解説
40				20	2月28日	英会話総合演習
合計時数				20	※日程は変更されることがあります。	

講義科目名	演習Ⅰ	分野区分	応用分野
担当教員名	蓮見 昭洋	講義回数	25回
履修学年	第1学年	履修期間	通年
講義内容	<p>まず正常なからだの構造や仕組みを総復習する。 正常な状態が理解でき次第、異常状態である外傷(骨折や脱臼など)を重ね合わせ 正常と異常が判断できるような総合力を身につける。</p> <p>就職ガイダンスでは、将来的なビジョンの獲得を目指す。 就職先として、様々な分野の、それぞれの考え方や施術方法などを学ぶことで、自分の ビジョンを明確にし、早い段階から仕事に対する意識を持つようにする。</p>		
評価	<p>期末試験の得点(前期末試験と後期末試験の平均値)を評価とする。 出席状況、授業態度、小テストなどは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備考			
参考書等	<p>解剖学 生理学 柔道整復学理論編 柔道整復学実技編 社会保障制度と柔道整復師の職業倫理</p>		

第1学年科目(演習I)

担当(蓮見 昭洋)

週	編	章	時数	日付(Ⅰ部)	日付(Ⅱ部)	内容
			1	4月5日	4月5日	オリエンテーション
			2	4月5日	4月5日	オリエンテーション
			3	4月5日	4月5日	オリエンテーション
			4	4月25日	4月26日	総合演習
			5	4月25日	4月26日	総合演習
			6	5月16日	5月17日	総合演習
			7	5月16日	5月17日	総合演習
			8	6月6日	6月7日	総合演習
			9	6月6日	6月7日	総合演習
			10	6月29日	6月29日	期末試験
			11	6月29日	6月29日	期末試験
			12	7月14日	7月14日	総合演習
			13	7月14日	7月14日	総合演習
			14	7月14日	7月14日	総合演習
			15	8月4日	8月4日	就職ガイダンス
			16	8月4日	8月4日	就職ガイダンス
			17	8月4日	8月4日	就職ガイダンス
			18	10月3日	10月4日	総合演習
			19	10月3日	10月4日	総合演習
			20	11月28日	11月29日	総合演習
			21	11月28日	11月29日	総合演習
			22			総合演習
			23			総合演習
			24	12月7日	12月7日	期末試験
			25	12月7日	12月7日	期末試験
合計時数			25	※第22・23限目は日程が確定次第お知らせします。 ※日程は変更されることがあります。(7/14は授業扱いとなりますのでご注意ください。)		

講義科目名	臨床実習 I	分野区分	専門分野
担当教員名	梅山 貴史(実務経験有り)	単位	63単位
履修学年	第 1 学 年	履修期間	通 年
講義内容	<p>・実際に接骨院で行う受付・施術・施術録の作成等、業務全般について学ぶ。 ・物理療法や柔道整復術および患者対応等を学ぶ。</p> <p>※1人あたり8回接骨院で実習を行います。 日程は人により異なりますので、各自確認をしてください。 球技大会・体育祭は全員参加となります。</p>		
評 価	<p>実習中の言動・態度・取り組み、また実習終了後に提出するレポートで評価する。 出席状況、授業態度などは年度末の総合評価の時点で加味することがある。</p>		
備 考	<p>学校で購入したポロシャツと、動きやすいズボン、動くのに適した靴を履いてくること。 実技の授業と同様、装飾品等の着用は出席と認めないので実習開始前までには外すこと。</p>		
参考書等			

第1学年 科目(臨床実習Ⅰ)

担当(梅山 貴史)

		実習場所	実習	時数	日付	内容	
1	イクメ接骨院		1日の活動に参加すること	1	5/7~5/24	清掃、準備、受付業務等 施術体験 運動指導について①	
2							
3							
4							
5							
6				5/16~6/7	1日の活動に参加すること	6	低周波、超音波の基本的な使い方① 施術練習① 運動指導について②
7							
8							
9							
10							
11				6/6~6/21	1日の活動に参加すること	11	低周波、超音波の基本的な使い方② 施術練習② 運動指導について③
12							
13							
14							
15							
16				7/2~7/11	1日の活動に参加すること	16	低周波、超音波の基本的な使い方③ 施術練習③ 運動指導について④
17							
18							
19							
20							
21				7/5~9/13	1日の活動に参加すること	21	患者対応応用(1) 施術練習 運動指導について⑤
22							
23							
24							
25							
26				7/15~9/12	1日の活動に参加すること	26	患者対応応用(2) 施術練習 運動指導について⑥
27							
28							
29							
30							
31				9/6~10/3	1日の活動に参加すること	31	患者対応応用(3) 施術練習 運動指導について⑦
32							
33							
34							
35							
36				10/2~2/19	1日の活動に参加すること	36	患者対応、応用④
37							
38							
39							
40							
合計時数				40			

※1人あたり8回接骨院で実習を行うこととなります。日程は人により異なりますので、各自確認をしてください。
※日程は変更されることがあります。